

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年 6 月 6 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670104674号
法人名	有限会社 にこやかライフ
事業所名	グループホーム さくら荘(1階)
所在地	鹿児島市 坂之上 七丁目38番56号 (電話) 284-2330
自己評価作成日	平成25年5月6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1 介護の質向上の為、定例会、朝礼等で自己啓発の必要性を説き、社内研修の充実、外部研修の積極的な参加等実践しています。
- 2 利用者の「命と暮らしを守る」を目標に、災害時の避難訓練、防火訓練、設備の点検等定期的に実施しています。
- 3 桜、梅、すもも等花見の季節には広い芝生の庭に出て、花見や食事を楽しんで頂いています。花壇や菜園等利用者様が、四季を感じることが出来る住環境の維持に努めています。
- 4 地域の一員として、夏祭り、敬老会等町内会行事への参加や、高校生や中学生の職場体験学習の受け入れて、地域との交流に務めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地のなかにあり、広い庭と四季を感じる木々や花に囲まれている。さくらの木や果樹が10年の歴史を語り、利用者、家族来訪者を和ませている。

運営者、管理者は常に利用者の立場に立ったケアを心がけ、地域住民の一員として、行事やイベント、ボランティアに参加している。

園庭で催される運動会や演奏会、食事会も地域との交流を深めるものである。

庭に取り付けられた手すりも、利用者の安全を配慮して作られたものであり、随所にアイデアが活かされている。

職員も理念を共有し、利用者へ接する思いや、資質の向上で更なるサービス提供を目指している。

医療機関との連携も取れており、家族と利用者からの信望が得られているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員採用時、日々の申し送り時、社内定例会などの機会を捉え意識付けを行っている。 ホーム玄関に運営理念とともに「世界人権宣言」、「ケアの目標」、「認知症の定義」を掲示している。	3年前に理念の見直しがされ、笑顔・真心・奉仕の世界人権宣言の柱を基本にケアの目標を掲げ、玄関や事務所に掲示し、日々の生活や職員会議、研修で振り返りながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	石塚町内会行事（夏祭り、公園清掃、夏季、冬季の夜回り等）に積極的に参加している。 谷山夏祭りにグループホームが、地域の一員として参加している。 地域の敬老の日のお祝いに御利用者様も参加している。	運営者を始め、地域のボランティア活動に積極的であり、夏祭りや敬老会なども利用者と一緒に参加している。子ども会や近隣住民、職員も演奏会を開催し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	石塚町内会、青壮年部会、むつみ会、婦人部会などで、機会を捉えて地域密着型サービスの意義と認知症への理解を深めている。 認知症、高齢者介護の相談窓口のPRに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員に評価の取り組み状況や課題について報告を行い、そこでの意見を活かしている。	運営推進会議の議題は年間で作成され、家族代表の方も積極的に参加がある。ヒヤリハットによる詳細な介護事故分析表を作り、会議の中で報告をしたり、そこでの意見や取組みもホーム便りで家族にも報告している。介護記録の書き方は統一化を図るため、マニュアルも作成し、情報やケアの共有を図るなど、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鹿児島市担当窓口にて、介護事故、相談・苦情等法令違反がない様に相談し、指導を受けている。又運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加協力を受けている。	運営推進会議に市町村の担当職員の参加をもらい、入居者の状況報告や相談、指導を受けている。空き状況などもネットで公開され、市町村担当者と連携を取りながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての社内研修を実施している。 身体拘束防止マニュアルを作成し、入居契約時に説明を行い、適正な運用体制が取れている。	定期的な身体拘束委員会で研修を行い、職員は言葉使いに気を配り、笑顔をもっとに利用者に接することを心掛けている。また管理者は職員の言動に対してその都度注意を促すこともある。玄関の施錠はせず、さり気ない見守りと同行で利用者のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について社内研修を実施している。 肉体的虐待防止や言葉による精神的虐待防止について定例会等、意識の啓発を実施している。又家族の心情を考慮し家族会やアンケートを実施し実態把握に努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についても勉強会で取り上げ理解を深めている。 成年後見人が選任されたご利用者が、現在1名おられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手続きチェック表に基づき、運営規定、契約書、重要事項説明書や事故防止委員会等の設置状況、医療連携体制等の同意を必要とするもの等、運営者と管理者が詳しく説明している。退去の条件や利用料等トラブルが予測される事項は、特に時間を掛け理解を得て契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、年1回に介護相談員が訪問し、相談にのって頂いている。家族には、入居契約時に相談苦情体制の説明や玄関の掲示等で家族の理解を得ている。運営推進会議や家族会で意見交換を行い、相談苦情処理委員会、定例会等で解決策等を検討し、家族への回答と運営に生かしている。	年2回の家族会や面会時に利用者の状況報告をすることで、意見や要望を出しやすい環境作りをしている。利用者には市の介護相談員の訪問で相談できる体制もある。運営推進会議や相談苦情処理委員会でも出された意見も検討し、家族にはホーム便りや手紙で報告しそれらを運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議、事故防止委員会、身体拘束廃止推進委員会、相談苦情処理委員会やケア会議、定例会、懇親会等で職員の意見や提案を求め反映させている。	各委員会でも出された職員の意見や提案を運営に取り入れている。廊下に掲示された利用者の着物姿の写真は正月の恒例行事であり、利用者のいきいきとした表情が読み取れる。また、運営者、管理者は職員の資格取得にも積極的であり、働く意欲の向上や質の確保に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の目標を協議し、挑戦している。24年度は、2名介護福祉士に合格している。適正な給与体系と人事評価で処遇し、定昇の実施や中小企業退職金制度への加入、有給休暇の取得推進等労働意欲を高める様に努力している。又21年度より介護職員処遇改善交付金を受け賃金改善に努めている。		

鹿児島県 グループホームさくら荘 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の自己啓発と専門的なOJTを積極的に実践している。又研修計画に基づき社外研修への積極的な参加及び社内研修を実践している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>H17年末に谷山地区のGHの勉強会が立ち上がり、現在県社協の支援の下、複数事業所連携事業谷山地区勉強会として発展し、年に7回の勉強会をそれぞれの専門の講師を招いて学んでいる。各研修会を通して、市民へのGHアピールとネットワーク作りに活かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にさくら荘に来院して頂き、本人の意志や家族の想いを良くお聞きし、適切なアドバイスに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていることを理解し、さくら荘としてどのような対応が出来るか、事前に話し合っている。家族の苦勞やサービスの利用状況、経緯等、ゆっくりとお聞きすることで、リラックスして次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にさくら荘に来院して頂き、本人の意志や家族の想いを確認し、適切な入所の提案や必要に応じ、他のサービス機関の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかで楽しい生活が送れるよう笑顔で声掛けや場面づくりをしている。職員はカンファレンスを通して共有ケアを用いて良い関わりが持てるようにしている。「してあげている」という意識を持たずとともに支えあえるような関係づくりに努めている。本人の想いを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と行事など一緒に楽しむなど、情報を共有し同じ想いでケアを行っている。面会時は、情報交換を行い、共に本人を支える関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	親戚の方やご友人の来訪が合った時は、居室などでご本人とゆっくり談笑できるような環境づくりを心がけている。	親戚の訪問や友人の面会も多く、日々の生活のなかで気持ちを汲取っている。墓参りや衣替え、外泊を希望する利用者は家族と連携をとり支援している。外食を楽しんだり、中学生の職場体験での交流やセラピー犬も利用者を和ませている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のトラブルに困難さを痛感しているが、それぞれの関わりをそれとなく見守ったり、個別にお話を聞いたり、また、職員は、お互いの関係がうまくいくようにフォローしている。日々の食事やお茶時に一緒に会話に入り、調整役になり支援している。利用者同士が共に支えあえる関係づくりに努める。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所により退所された家族の不安や困り事の相談には、いつでも応じることが出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の会話や表情から想いを汲み取り、それとなく希望や意向が実現できるように努めている。困難時には、本人や家族に状況報告を行い、希望や意向を詳しく聞き取りを検討している。	一人ひとりが何処で、どのように暮らしたいか、何をしたいかを理解するためのアプローチを丁寧に行い、意思疎通が困難な利用者は表情やしぐさ、また家族から情報を得て本人本位の支援をしている。囲碁の趣味がある利用者とは、テレビ番組を録画して一緒に楽しむこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談契約時や入居後、家族来訪時に聞きとりを行っている。また、医師より過去の認定情報、フェースシート活用や日常会話の中から過去の暮らしぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、それぞれの過ごし方を見守り、把握している。出来ること、わかる事を言動や行動から感じ取り、職員で情報を共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族来訪時に聞き取りを行ったり、担当職員がセンター方式によるアセスメントを作成して担当者会議やカンファレンスを開催して介護計画を作成している。また、朝礼時一人ひとりの状況を把握することで介護計画に活かしている。	利用者をより良く理解するために担当職員を2人に決め、担当者会議には看護師、また医師のアドバイスも取り入れた介護計画を作成している。ユニットごとに看護師も配置し、職員はすべての利用者が把握できるシフトになっている。嗜好食も配慮され、現状に即したモニタリングとケアプランである。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録（食事・水分・排泄等身体的状況）やケース記録（暮らしの様子・本人の言葉や行動・職員の気づき・利用者の状態変化）を個別に記録し、ケアカンファレンスや日常の会話の中で情報共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員には、運営推進会議や入居相談の為に来所等、協力を頂いている。ボランティアによる踊りや演奏会等継続して協力を頂いている。消火訓練・避難訓練等は、南消防署の協力を頂いている。中学生の体験学習の受け入れを行っている。移動図書館や訪問理美容を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医は、本人の希望医師や事業所の協力医を家族と協議して決めていただいている。又複数の医療機関と協力関係が出来ている。家族と協力し、入退院、通院介助を行っている。	利用者と家族の希望でかかりつけ医の受診であるが、ホームの協力医に変更した利用者もいる。家族の受診同行が基本だがホームで連れて行く場合もあり、受診結果の状況報告もしている。往診や認知症、眼科、歯科などの専門医との協力関係も築かれ家族の安心が得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看（2F）と準看（1F）を配置しており、常にご利用者の健康管理や状態変化に応じた支援体制を行っている。各医師との連携も取れている。又緊急時の体制も機能している。利用者1名は、家族の希望で訪問看護を利用し、月2回の往診と緊急時の連携も取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は生活記録等を持参し、支援方法に関する情報を医療機関に提供している。入院期間中は職員が頻繁に訪問し、本人、家族への支援を行い、速やかな退院に結び付けている。入退院時には、家族と情報を共有し、支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに対する指針に沿って、家族、医師、看護師を交えて、状態の変化があるごとに話し合い、家族の気持ちの変化やご本人の想いに注意を払いながら事業所でできる事等の話し合いを行っている。	重度化や終末期支援のホームの対応を、家族、かかりつけ医、看護師を交えながら、随時、意思を確認し対応方針の共有を図っている。ホームは家族の協力を得て看取りの経験もある。ホームとしてのターミナルケアもチームで支援し、重度化に伴う意思確認書による文章化も考慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急マニュアルを利用したり、毎月の勉強会や日々生活支援の中で看護師の指導を受けて全職員が意識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	南消防署の協力を得て、年2回、消火避難訓練をご利用者と一緒に参加し、実施している。勤務状態に合わせた役割分担を掲示している。火災通報装置で地域に知らせる事が出来るようにしている。大規模災害時のマニュアルを検討している。	消防署の指導のもと避難訓練を行い、日中の近隣住民の参加は難しいため、運営推進会議を兼ねて行う場合もある。消火器のチェックや地域住民へ知らせる火災通報装置もあり、各居室にはスプリンクラーも設置されている。非常時は布団で降ろす指導も受けており、備蓄もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼、定例会等の折、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方(言葉使い、声掛け等)には注意を払い、利用者が、穏やかに過ごせる様になっている。利用者1人に担当者を2人配置し、ケアの向上に努めている。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしていないか、朝礼や定例会で常に確認している。トイレ誘導や、失禁時も目立たずさり気ない言葉かけに配慮し、利用者の守るべき情報は漏らさず、人権と人格を尊重した対応になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者が決定するのではなく、いろいろな選択肢を準備して、それぞれが、自分で決める事が出来る場面作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調やその日、その時の気持ちを尊重し、散歩、買い物等、個々の想いや状態や想いに配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出困難な利用者には、2ヶ月に1回の訪問理美容を利用している。着替えは、本人の意思で決めて頂き、自己決定の出来ない方には、職員が声掛けして一緒に行っている。洗面台の鏡の角度があることで自分の顔を見ながら整容できる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、栄養やカロリーに配慮し、季節のものを取り入れている。また利用者の希望を取り入れるように工夫している。職員も同じテーブルで楽しく食事が出来る様に努めている。利用者と一緒にツワの皮むきや竹の子の下ごしらえ、餃子作り等の食事の準備をしている。	管理者は食の楽しみを味わってもらえるように、栄養、カロリー嗜好、季節の食材にこだわった献立表を年間を通して作成し、二者択一で作るよう工夫されている。下ごしらえや下善、誕生日用のケーキも利用者の手伝いをもらい準備している。外食や店屋物もあり、食事を楽しむことのできる支援である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、体調に配慮し、肉、魚、野菜をバランスよく取り入れ、献立は、利用者の希望や内容を工夫し、飽きない献立に努めている。水分量は、1日1000mlの摂取を目標にOS-1やノンカロリーシロップ等を利用したり食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、スポンジブラシなどを使用してその人に応じた口腔ケアを行い、肺炎予防に努めている。食後の歯磨きの声掛けや義歯洗浄等の支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間や習慣を把握して、自然にトイレに行く事が出来るような声掛けを行い、トイレでの排泄自立支援を行っている。歩行困難な利用者には、居室ではポータブルを使って頂き、失禁時は、本人のプライドを傷つけないように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し自立排泄を支援している。日中は布パンツであり家族の希望で夜間のリハパンツの方もいる。夜間は定期的な見回りと動きを察知しポータブルやトイレへの誘導を行っている。職員はトイレの清掃にも心がけ、気持ちよく排泄できる環境を作っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録やご利用者への聞き取りと便器の確認で行っている。運動の出来ない利用者や少ない利用者は、医療との連携で下剤の処方を受けている。繊維質の多い食材や水分補給、散歩、家事活動等身体を動かす機会を設け、自然排便が出来る様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の希望を聞きながら、一人ひとりの希望やタイミングを合わせたり、その日の体調やペースに配慮して入浴の順番、時間、回数を決めて、ゆっくり入浴できるように支援している。	週3回の入浴ではあるが、希望があれば毎日入浴も可能である。一人ひとりに声をかけ、その日の体調や入浴をためらう利用者は時間や順番をずらして対応している。火、木、土の足浴も楽しみであり個々に応じた入浴の支援になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中レクリエーション活動の参加を促して生活リズムを整える様努めている。 一人ひとりの体調、表情、希望に沿った安眠や休息の支援を行っている。医療と連携を行いながら、眠剤などの処方を受けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効、用法、用量を把握し、一人ひとりに手渡しと薬確認をし、生活記録表に記録している。副作用については、下剤、睡眠等について、その都度変化の確認をしている。薬の管理は個人別に色分けして誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの今したい事や出来る事を尊重し、体調に配慮しつつ、移動図書の利用や食事作りや園芸、洗濯物たたみ、掃除、塗り絵、パズル、散歩等楽しい時間を持てるような支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調に応じて、日々の散歩や食堂等の外食、園庭での食事会等で、季節の移り変わりを肌で感じて頂いている。地域の夏祭りや花見等、計画を立てて事故の無いように留意しながら支援している。家族への参加も呼び掛けている。	晴天の日には利用者の希望に添って、園庭、園外の散歩やドライブ、買物に出かけている。季節の花見や地域の夏祭りには小遣いで買う楽しみもあり、正月には近くの神社に初詣でに出かけている、高齢になった利用者の事故と健康に留意した外出支援になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、事業所で預かり、管理している。職員と一緒に買い物に行ったり、お金の事を尋ねて来られた時など、お金がある安心感や満足感を持って頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される方には、事務所の電話をご利用して頂いている。時には、職員が一部対応して支援している。手紙が届いたらすぐにご利用者にお渡しし、また、読んで差し上げたりして支援している。時には ご返事を差しあげる支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者は、環境に敏感に反応される。ドアの開閉音や物の倒れる音、職員の大声、大笑いに気を付けている。季節感を感じる花や利用者手作りカレンダー、パズル等や飾り物を利用したり、カーテンや照明も吟味し、家庭的な雰囲気作りに役立てている。毎朝の掃除にご利用者も参加し、利用者の作品コーナーも設けたりして、快適な住環境の維持に努力している。	玄関を入ると、広い庭と実のなる木々が植えられ、園庭にもすぐ出れる開放感溢れるリビングがある。壁には利用者の作品のパズルや手作りカレンダー、正月に撮った着物姿の写真、庭での運動会、演奏会などの様子が家族や来訪者を楽しませてくれる。トイレや浴室も整理整頓され清潔であり居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファーやリビングテーブル等、各人が好みの場所を確保している。ソファーの位置も季節やご利用者の希望に応じて変更している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの小物や季節毎の切り花、本人手作りのカレンダーや誕生祝いメッセージ、季節の工作物、家族の写真等を飾り、その人らしい個性のある居室空間作りを工夫している。</p>	<p>広い窓からは近隣の住宅や庭が見え、カーテンの色も居室によって変えられ自宅に居るような感覚である。収納はクローゼットとチェストに収まり、利用者が転倒しにくい広い空間の確保をしている。利用者は思い思いの写真や作品、小物に囲まれ違和感なく過せるように工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室入口に目線の位置で名札や写真を掲示している。3ヶ所の「便所」の名札のある共用トイレを一人ひとり本人の使い勝手の良いトイレを利用している。食事のテーブルの位置も人間関係も考慮しながら決めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームさくら荘 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームさくら荘 1ユニット

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない